

平成28年10月11日(火)

老球の細道274

「Bリーグ」ゲームディレクター

会津バスケットボール協会 室井 富仁

福島県にプロバスケットボールチームができた頃から、私も地元のバスケットボール員ということもあって、何かプロバスケットボールに関わる仕事をしたいと以前から考えていた。昨年「名前だけコーチ」のオファーが県外のあるチームからあったが、諸事情で固辞せざるを得なかったので実現はできなかった。

8月にBリーグ発足と共に「Bリーグ・ディレクター」という仕事の話が舞い込んだ。本当はコーチングスタッフで現場に関わりたかったのだが、どんな形であれ、一度はプロバスケットボール関係の仕事を経験したかったので、すぐに承諾した。

ゲームディレクターとはBリーグの公式試合における最高責任者の「チェアマン」の代理として福島ファイヤーボンズのホームコートゲームを責任監督する仕事である。Bリーグを運営するジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグは、日本における第3のプロスポーツとして全国のバスケットボールファンを魅了し、日本のバスケットボールを活性化するために、試合の品質管理が最も重要であると考えて、ゲームディレクターという役職を設けた。

早速1日(土)2日(日)とボンズのホームコートゲームがあり、初の仕事をしてきた。具体的にしてきたことは下記のとおりである。

- ①試合開始時刻150分前にアリーナに集合する。
- ②選手証を確認し、出場資格を確認する。
- ③試合開始70分前に「コートインスペクション」を運営責任者、審判立会いのもとで行う。要は、会場の照度、温度、ゴールリングの高さ、コート上の障害物の有無、TO機材の稼働状況などである。これらを10分以内で済ませる。
- ④ゲームディレクター・ミーティング。両チームの運営担当者、実行委員、ヘッドコーチ、審判員とで選手の出場資格の確認、スタメンの確認、大まかなスケジュールの確認。
- ⑤ゲームが開始されたら運営関連、競技関連、広報関連、悪質な違反行為などをチェックシートによって評価する。
- ⑥ゲームが終了したら24時間以内に「報告書」を提出する。

ざっとこのような流れで仕事を行なった。拘束時間は長いですが、ゲームをコートサイドで観戦でき、ヘッドコーチや審判員と直接話をしながらプロバスケットボールのエンターテインメントを楽しめたのはこの上ない喜びだった。ただ困ったことは、大音響による爆音で話し声が聞き取れない不自由さである。知り合いの福島医大バスケットボールOBの先生がドクターとして来ていたので、バスケットボール談義をしながら一緒に観戦していたのだが、時折話が聞き取れなかったのが残念だった。

「Bリーグ」のBに対して以前から違和感を持っていた。なぜAでないのか?。バスケットボールのBを当てたことは理解できるが、「シンプルですぐに覚えられる印象的な名称で無限の可能性を秘めている」という根拠はまだよくわからない。

いずれにせよ、BリーグがNBAやスペイン、ドイツなどのプロリーグのように、平日の夜にもゲームが開催され、仕事を終えた多くの人たちの楽しみとなることを切に願う。